

令和5年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）
分担研究報告書

性差にもとづく更年期障害の解明と両立支援開発に関する研究 -女性更年期障害-

研究分担者 甲賀 かをり 千葉大学大学院医学研究院産婦人科学 教授

研究分担者 岩佐 武 徳島大学大学院医歯薬学研究部 産科婦人科学分野 教授

(研究要旨)

女性更年期症状が就労に与える影響を、プレゼンティーズムを評価することができるWfunなどを用いて調査し、その実態を把握する。その結果にもとづき労働生産性の維持向上につながる対策を検討する。

A. 研究目的

女性更年期障害により労働生産性が低下するという報告は散見されるが、前向き調査は少ない。更年期症状への治療介入によるプレゼンティーズムなどの変化を明らかとし、その結果より労働生産性の維持向上につながる対策を検討する。

B. 研究方法

更年期障害で外来通院する女性患者に対し、診察に加え、Wfunを含めたアンケートを初診時、3カ月後、6カ月後、12カ月後に行い、臨床症状、性ホルモン、プレゼンティーズム、就労に関する状況の評価を行う。

(倫理面への配慮)

徳島大学の倫理審査委員会で研究の承認を得たうえで、研究参加者には書面で同意を取得し、個人を特定できる内容は含まない研究としている。

C. 研究結果

現在 53 例に対し前向き調査を施行中である。結果の確認、解析は調査期間終了後に施行する予定であり、まだ調査終了症例はない。

D. 考察

調査終了後、結果を解析し考察する。

E. 結論

調査終了後にまとめる。

F. 研究発表

1. 論文発表

調査終了後に論文として発表する。

2. 学会発表等

調査終了後に解析し発表する。

G. 知的財産権の出願・登録状況

現時点では未定である。

1. 特許取得

現時点ではない。

2. 実用新案登録

現時点ではない。

3. その他

特になし。